

2012 年度 景観・デザイン委員会 第2回親委員会

議 事 要 旨

日時：2012 年 12 月 1 日（土） 12:30～13:15

会場：東北大学中央棟 4 階 中会議室

出席者（敬称略）：

＜委員＞天野委員長、屋代委員、関委員、山下委員、上島委員、高橋委員

＜委員兼幹事＞佐々木幹事長、水谷幹事、大波幹事、横山幹事、伊地知幹事、沖田幹事、
福島幹事、山口幹事、上田幹事

議題：

- 1) H25 事業計画
- 2) 親委員会 H24 予算使用状況
- 3) 小委員会等活動報告
 - ・デザイン賞（福島幹事）
 - ・デザイン賞検討 WG（福島幹事）
 - ・防災・復興（佐々木幹事長）
 - ・研究発表会（水谷幹事）
 - ・論文集 D1（山下委員）
- 4) 11/13 幹事会からの報告・意見交換
 - ・景観に関する資格制度について（天野委員長・佐々木幹事長）
 - ・学会への各賞の推薦（佐々木幹事長（該当候補なし））
 - ・景観・デザイン研究論文のすそ野を広げる活動（佐々木幹事長）
 - ・次期委員長・幹事長・各小委員会委員長候補について（天野委員長・佐々木幹事長）
- 5) その他
 - ・土木学会誌の委員会紹介

資料：

- ・会議次第
- ・資料 1 平成 25 年度事業計画および予算要求調書・行事計画書
- ・資料 2 親委員会平成 24 年度予算使用状況
- ・資料 3 土木学会デザイン賞 2012 受賞作品（案）・土木学会デザイン賞の意義と課題
- ・資料 4－1 土木学会認定技術者資格制度について
- ・資料 4－2 平成 25 年度全国大会共通セッションテーマの募集
- ・資料 4－3 景観・デザイン委員会・小委員会 歴代委員・幹事一覧
- ・資料 5 土木学会誌 2013 年寄りの新連載 企画趣旨・内容

議事：

1 H25 事業計画

- ・上田幹事より資料 1 について報告された。

2 親委員会 H24 予算使用状況

- ・佐々木幹事長より資料 2 について報告された。

(佐々木幹事長) 昨日 (11/30) のシンポジウム費用は、親委員会の予算より支出する。残予算は 60 万円程であり、今後必要があれば土木学会デザイン賞関係の資料作成 (英字パネル等) 等に使ってはどうかというアイデアが出ている。シンポジウム等を 1 回開催できるだけの金額はあるので、もし企画があれば提案して欲しい。また、旅費の精算をしていない方がいたら対応すること。

3 小委員会等活動報告

1) デザイン賞、2) デザイン賞検討 WG

- ・福島幹事より資料 3 について報告された。

(福島幹事) 検討 WG では、関係者ヒアリングや作品応募者へのアンケートを行い、課題の整理をしているところである。アンケートの返信をみると、関係者ヒアリングで出された課題が数字として表れている。今回の研究発表会ではその内容について発表したい。年度内に活動の成果をとりまとめて、来年度から具体の改善を進めたい。

(佐々木幹事長) 福島幹事の発表を聞けない人もいるので、後日発表資料を委員に送信すること。

3) 防災・復興

(佐々木幹事長) 防潮堤整備のあり方について、地元から意見が出ている。そのことを踏まえて防災・復興小委員会で今月半ばに議論するので、その内容については次の機会に報告したい。

4) 研究発表会

(水谷幹事) 昨日のシンポジウムの入場者数は 110 人だった。悪くない成果である。協賛企業は最終的に 23 社となり、去年から 5 社増えた。今回の反省としては、研究発表会の冊子に誤植があった点である。チェック体制が十分にとれなかった。来年以降はケアレスミス無くするためにチェック担当者を決めるなどの対策を考えたい。

5) 論文集 D1 編集

(山下委員) 土木学会論文集の投稿数は学会全体としても減少傾向にある。昨年度から編集小委員会の予算は各分冊の論文投稿数と掲載数で決められるようになっているが、今後は投稿数のみで決まる仕組みに移行する予定である。そのような事情から、念のため次年度も親委員会より 20 万円程度の予算の確保をお願いしたい。

平成 25 年 1 月から土木学会英文論文集が発刊される。第 1 号は震災に関する特集を組むことになっており、各分冊の担当に特集記事の執筆依頼があった。D 部門からは平野勝也先生の記事が載る。平成 26 年以降の号の D 部門の論文は、招待論文として学会論文賞の受賞論文を英文化して載せることを考えている。他部門では一般投稿の募集を開始しているところもある。特に、留学生が在籍している大学には応募が呼び掛けられている。

4 11/13 幹事会からの報告・意見交換

1) 景観に関する資格制度について

・天野委員長より資料4-1について報告された。

(天野委員長) 民間企業の専門家が景観アドバイザーとして活躍できるように、景観分野の資格をつくりたい。土木学会には認定土木技術者という資格がある。この制度には複数の資格分野が設定されており、現在は、設計や調査・計画などの資格分野に景観が散りばめられている。新しく景観の分野を独立させたい。上級土木技術者は、国のプロポーザルで技術士に近い評価点を受けられるので、実務面でもメリットがある。土木学会にこの資格の専門委員会がある。そこに提案すれば変更できる可能性がある。

(佐々木幹事長) 新しく独立させる景観分野の資格要件と技術分野については、佐々木が案を作成して学会に提出する。認められた場合、今後は、実際の試験問題などを考えていく必要がある。

(天野委員長) 景観分野の独立に関する具体的な課題については、学会の専門委員会で検討することになる。恐らく、景観について検討できる委員が必要になるので、参加要請があった場合にはこの委員会から委員を出すことになると思う。

2) 学会への各賞の推薦

(佐々木幹事長) 幹事会で議論した結果、今回の推薦は見送ることにした。

3) 景観・デザイン研究論文のすそ野を広げる活動

・佐々木幹事長より資料4-2について報告された。

(佐々木幹事長) 基調講演でも「景観ムラ」になってはいけないという話があったが、景観・デザイン研究発表会が内輪の集まりになることを危惧している。研究発表会では大学以外からの論文投稿を増やし、投稿数を合計60編くらいにしたい。また、土木学会の全国大会や土木計画学研究発表会では景観・デザインに関する発表が減っている。そのため、平成25年度の全国大会では、土木における景観デザインの教育と展望をテーマとした共通セッションをやりたい。先月、提案書を学会に提出した。国土交通省などで景観教育を行っている方を招待したい。

(天野委員長) 景観・デザイン委員会と都市環境デザイン会議(JUDI)で、共同のシンポジウムをやるのはどうか。JUDIにも土木、建築、造園、照明の専門家がいるので、土木におけるデザインなどをテーマにすれば良い。

(高橋委員) 景観・デザイン研究発表会は参考になるので、造園分野との連携を考えたい。

(佐々木幹事長) 他の組織と連携する機会を増やしていきたい。

(上田委員) 幹事会では、景観まちづくりをテーマに全国大会で研究討論会をやったらどうかという提案があった。

(佐々木幹事長) 研究討論会の応募締切は来年1月なので、それまでに検討したい。具体的な内容については、日本大学まちづくり工学科の先生方に検討してもらいたい。

4) 次期委員長・幹事長・各小委員会委員長候補について

・佐々木幹事長より資料4-3について報告された。

(佐々木幹事長) 次期の委員長・小委員長の候補について、委員長は天野光一先生(継続)、幹事

長は重山陽一郎先生、研究発表会小委員長は関文夫先生から内諾をいただいている。デザイン賞小委員長と防災・復興小委員長は未定なので検討する必要がある。デザイン賞小委員長の候補について、デザイン賞 WG で考えていることはあるか。

（福島幹事）きちんとした議論はしていない。

（佐々木幹事長）来年2月のデザイン賞授賞式までに内定しておく必要がある。小委員長は親委員会で任命することとなっているので、それまでに候補案を教えて欲しい。

5 その他

（佐々木幹事長）土木学会誌で、学会の様々な委員会を紹介することになった。景観・デザイン委員会は来年6月号で紹介される予定であり、福井委員に執筆を依頼した。

（天野委員長）土木学会デザイン賞の協賛金のうち30%を学会に納めることになっているが、この割合については来年1月に学会と協議することになっている。結果については次の機会にお知らせしたい。

（関委員）研究発表会の広告費についても、割合を下げられないか。

（天野委員長）来年度以降、協賛金の扱いにすれば可能かもしれない。

（佐々木幹事長）次期の委員と幹事の適任者がいたら紹介してもらいたい。連絡担当は幹事長が頼みやすい方をお願いしているが、引き継ぎもあるので、今期末までは横山幹事にお願いしたい。

（関委員）土木学会デザイン賞の受賞作品をホームページで紹介するための編集作業を年内の公表に向けて進めている。その関係で予算の増額が必要になるかもしれない。その場合は連絡したい。

以 上